

I 事業の概要（地域の実情含む）

- 1 軽米町では平成11年10月28日に総雨量 230 ミリの豪雨による雪谷川の氾濫によって町の中心部が水没や流出するなど壊滅的な被害を受けた経緯がある。そのような過去の災害（雪谷川の氾濫等）について振り返りながら調査し、その後の町の防災や安全対策について学んでいく。
- 2 軽米中学校と共同で地域の清掃活動を行いながら、地域との関わりを深め、避難所までの経路や学校周辺の危険箇所の確認を行い、地域防災の共通認識を図る。
- 3 東日本大震災津波被災地を訪問し、住民や自治体との交流とボランティア活動を通し、防災意識を高める。
- 4 校内の避難経路の確認のほか、防災指導車による地震体験、消火訓練、炊き出し訓練等を取り入れた防災訓練を行い、災害時の安全や避難所の運営方法について共通の認識を図る。

II 取組の概要

本校では総合的な学習（2・3学年）、総合的な探究（1学年）で「ふるさと軽米」というテーマで地元軽米町について理解を深め、展望を考えるなどの学習を進めている。この取り組みは、次世代の軽米町を担う人材の育成を目指して地域連携型中高一貫教育の中に盛り込まれている。このような取り組みから、本校では「いわての復興教育」で掲げている3つの教育的価値のうち、特に地域に「かかわり」、地域が災害に見舞われたときには高校生がリーダーとなって町を支えようという防災リーダーの育成を図りながら、災害に「そなえる」という2つの柱をメインに、保健講話等による「命の尊さ」についての学習などもとおして、自らの人生を正しい判断でよりよく「生きていく」ことを目標に学習を進めた。

1 「かかわる」について

（1）1学年「町長講話」

軽米町長山本賢様を講師に招き、地元軽米町の施策をとおして課題に気づき、故郷への理解や現状、そして将来の展望について考えを深めながら、同時に研究する姿勢や協調して学習を深めていくこ

とにより、自己実現を目指した。

今回の講話をとおして、受講した1年生からは、「話を聞いて人口問題が深刻化していることを学ぶことができた。軽米町の一員として私たちも頑張っていきたい。」と町長に伝えられた。



（2）第1回推進委員会

小中高連携による防災・復興教育事業について打合せを行った。

- ・小-中-高合同で、町企画の「夢あかり（雪谷川）」に参加すること。
- ・小-高では、高校生による小学校訪問等を行い、「かかわり」を強化していくこと。
- ・中-高では、町内清掃活動や挨拶運動、文化祭における交流等を行い「かかわり」を強化していくこと。
- ・地域-高では、イベント・催しやボランティアに参加し、地域との「かかわり」を強化していくこと。

（3）有志による「軽米秋まつり流し踊り」への参加



地元講師に來校していただき、練習会を実施して本番に向けて練習を行った。多くの生徒が秋祭りには地元の山車の運行に携わっているが、「流し踊り」に参加した経験は少なく、学校として参加することとした。高校生の他、中学校PTA、高校PTA、高校同窓会と一緒に参加した。地元の方々からも、「高校生の頑張っている姿に元気をもらう」などと励ましの言葉も頂戴した。

(生徒 13 名、職員 3 名、PTA30 名、同窓生 10 名参加)



(4) 1・2 学年「中高一貫クリーン作戦」

軽米秋まつりの翌日に後片付けとともに町をきれいにする目的で実施した。中学生と高校生で協力して清掃活動を行い、生徒会を中心に連携を深めた。
(生徒 89 名、職員 6 名参加)



(5) 「課題研究発表」(軽米高校文化祭)

軽米高校文化祭にて総合的な学習(2年)と総合的な探究(1年)で「ふるさと軽米」というテーマで学習した結果を発表した。それぞれのグループによる発表をとおして、情報共有や地元について理解と現状、今後の課題点を確認した。またポスターセッションにより、來校した地元の方々へ成果を発表することができ大きな達成感と軽米町への関心や親しみを改めて持つことができた。



(6) 「いわての復興教育」児童生徒実践発表会 2020.2.4) を見学

1 年生 2 名が参加した。本校と連携している軽米中学校の実践発表では、軽米町の防災や中学校の防災、地域との関わりなど活動や研究の成果を共有することができた。県内各学校の発表を撮影し、帰校後振り返りをしている様子もみられ、大きく成長したことを実感した。



2 「そなえる」について

(1) 防災避難訓練①

例年の避難訓練をさらに実践的に練り直し、実際に災害が起きたらどうすればいいのかと、生徒職員一緒に学ぶことを目的に、例年1回の実施を今年度は2回実施した。県立総合防災センターより「防災指導車」を借用し、二戸消防署軽米分署による指導を仰いだ。地震体験を全生徒及び教職員が体験し、防災や減災に対する学習の場とした。現在の高校3年生でも東日本大震災時は小学校低学年であり、山間に位置する軽米高校生は直接大きな地震を知らない。そのため、実際の揺れというものを知ってもらいたい、その時どう動くのかを学んでもらいたいという狙いで実施した。阪神淡路地震や熊本地震級の揺れの体験では、その恐怖と何もすることが出来ないことを知り、改めて災害に日頃から備えなければならないことを実感した。また、翌日は軽米小学校も揺れの体験学習を実施した。

(全校生徒 134 名、全職員 30 名参加)



(2) 防災避難訓練②

避難経路の確認、消火訓練、炊き出し訓練を行った。災害により避難指示が出た場合、本校は避難場所に指定されているため、どのような動きをすればよいのか考える機会となった。実際に行ってみて、生徒も職員も甘く見ているところが浮き彫りとなった。特に通報等の機器の使い方の周知や、避難経

路曖昧さが課題となった。また、実際避難所になった場合を想定して炊き出し訓練を実施した。炊き出し訓練では、家庭科教員の指導のもと食物関係の授業を選択している生徒と保護者から協力をいただき、全生徒へ「豚汁」を提供した。消防署による指導を含め、防災や減災に対する学習の場となったとともに、絆を深めることができた。

(全校生徒 134 名、全職員 30 名、PTA 6 名参加)



(3) 「町の総合防災訓練」に参加

避難所設営や、20年前に軽米町内でおきた集中豪雨による雪谷川氾濫災害について学び、防災や減災に対する意識を高めた。

(職員 2 名参加)

(4) 学校調整課 主任指導主事（防災担当）来校
復興教育及び学校安全計画、危機管理マニュアル
等について指導助言を受ける。（対応：副校長）

(5) 1学年「被災地訪問学習」を実施

1学年が総合的な探究の一環で、東日本大震災に学ぶ防災というテーマで、将来的にどこに住んでも自らを律し、命を守ることができ、また有事の際に中心になって活動することが出来る防災リーダーの育成をねらいに、野田村を訪問した。東日本大震災津波による被害や復興状況及び今年度の台風や大雨による被害や復旧の様子について学び、防災や減災に対する意識を高めた。復興や災害時の様子を現地の方からお話を聞かせていただいたことで、防災について真剣に考えなければならぬと強く考える機会になった。また、「野田塩の製造」について見学し、地産地消や地域活性についてヒントをいただくことができ、貴重な体験ができた。

（1年生46名、職員4名）



(6) 救命基礎講習

二戸消防署軽米分署より講師を迎え、応急処置技能認定講習（普通救命講習修了証）の資格を得る。

（1年生46名、職員9名参加）

(7) 学校安全計画、危機管理マニュアルの見直し及び策定

令和2年度に向けた見直し及び策定に取り組む。校内各分掌等と調整を図り、年度末に完成させる。

(8) 第2回推進委員会

令和元年度学校安全総合支援事業（いわての復興教育スクール（内陸））に係る担当者会議

Ⅲ 取組の成果と課題

〈成果〉

- ・例年に比べ、実践的な訓練や実習を実施することができたため、生徒自身の防災への意識を高めることができた。また、職員間でも避難の方法や設備について改めて確認することができ、貴重な取り組みとなった。
- ・地域ぐるみの取り組みとなったため、地元に目を向ける機会になり、地元の長所や課題について理解することができた。また、地域と一体となって取り組むことで、多くの方と接することができ、生徒の視野を広げることができた。
- ・東日本大震災津波を直接知らない生徒が現地に赴き当時の様子や復興の過程を知ること、人の痛みとともに、人の役に立ちたいというボランティア精神と防災意識の醸成を図ることができ、地域の防災リーダーを目指す姿勢を育むことができた。

〈課題〉

- ・異校種間連携の取り組みの日程調整が難しかった。それぞれの学校行事もあり、関係団体が一体となって進めていくことがスムーズにできなかった。
- ・時間も限られた中での取り組みであったため、それぞれの実践が単発的なものになってしまった。職員間での連携を密にして、学校として、また地域として主体的かつ継続的に取り組むこと、また担当者も他の教育実践との関連性や目的を整理して実践していくことが必要である。